

道の駅「もてぎ」（栃木県茂木町）

「道の駅もてぎ」の取り組みについて ～新たな地域の拠点形成～



堀江 順一

道の駅もてぎ（栃木県茂木町地域振興課）



1 はじめに

道の駅もてぎは、平成8年7月、地場産業振興、地域間交流及び情報発信の拠点づくりを目的に、国道123号沿いに栃木県で第1号の道の駅としてオープンした。

オープン当初の来場者数は、年間32万人だったが、現在では年間160万人もの人々が訪れている。



写真1 「道の駅もてぎ」の全景

2 施設の構成

道の駅もてぎの敷地面積は4.1haで、周囲には一級河川の逆川や里山の風景など、訪れる人々の気持ちを癒している。駐車場は、普通車330台、大型車5台、障がい者用4台、電気自動車充電用1台の合計340台のスペースを設けている。施設内には特産物等販売店、軽食コーナー、手づくりアイスクリーム、朝採り野菜直売所、わっぱ飯とそばのレストラン、観光案内情報コーナーのほか、茂木町防災館などが整備されている。

特に、手づくりアイスクリームは人気が高く、町内産の生いちごとミルクアイスをお客様の目の前で混ぜて作る「おとめミルク」は年間9万個売れる人気商品で長い行列が出来るほどだ。また、茂木町特産のゆずと美土里野菜をたっぷりと使用したヘルシーな「ゆず塩ら〜めん」も人気だ。お好みでゆず酢をか

けてお召し上がりいただくと、また違った味わいが出来る。

他に、SL 遊具等を設置した芝生広場や河川公園も併設しており、土日祝日には真岡鐵道の SL が施設の隣を走り、親子連れの人気のスポットになっている。



写真2 「もう一度食べたい道の駅グルメ」ランキングで第1位になった「ゆず塩ら〜めん」

3 「美土里たい肥」使用の朝採り野菜

お客様が道の駅もてぎを訪れる大きな目的のひとつに、朝採り野菜直売所がある。

朝採り野菜直売所には187名の農家が登録をしていて、少量多品目の野菜を出荷している。売り場には生産者の顔写真と名前が掲示してあり、出荷者の名前は農産物の袋にも印刷するなどして生産者の顔が見える工夫をしている。

道の駅もてぎの農産物の大きな特徴は、美土里たい肥

を使用して育てた作物である事だ。

美土里たい肥とは、茂木町が人と自然の共生を目的に循環型地域づくりを目指して作った有機物リサイクルセンター「美土里館」で製造されたたい肥で、①落ち葉②おが粉③もみがら④家畜糞尿⑤家庭から出る生ごみを完全発酵させた、無臭でサラサラした有機たい肥だ。美土里たい肥は、土着の発酵菌が豊富な落ち葉をベースに使っていて、自然のミネラルや有益な微生物をたっぷり含んでいるため、このたい肥を使用して育てた野菜は、野菜本来の味が濃く旨みが凝縮されたものになる。

更に、総ての野菜は「栽培履歴」の提出を義務づけており、残留農薬検査、放射能検査を実施し公開しているため、お客様は朝採りで地場産の安全で安心な新鮮野菜を購入できる。

4 もてぎ手づくり工房

町では、平成24年5月に、茂木町特産物の柚子、いちご、えごま、ブルーベリー、りんご、梅などの加工所として、茂木町特産品加工所 通称「もてぎ手づくり工房」を整備した。運営は道の駅もてぎが行い、茂木町の6次産業化推進のため、道の駅でも農産物の生産指導を行いながら、農家で栽培された農産物を道の駅もてぎが買い取り、手づくり工房で加工し、道の駅もてぎを中心に販売している。道の駅で農家から農産物全量を高い値

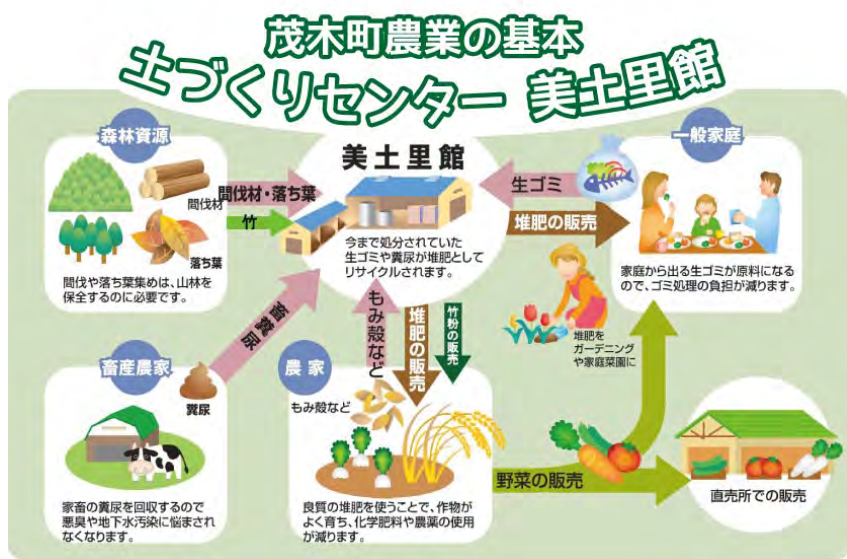


図1 茂木町の有機物リサイクルの流れ



写真3 手づくり工房で製造している商品群の一例

段で購入することにより、生産者の収入増はもちろんのこと、若手の育成を手助けし衰退しつつある茂木町の農業を発展させたいと考えている。

手づくり工房で製造される商品は、「地場産品・手づくり・無添加・少量高品質」に拘わったもので、「ゆず酢、ブルーベリージャム」など、既に36種類の新商品を開発し、売り上げも順調に伸びている。

特に柚子については、平成17年から町内の農家から、皮用と果汁用に分けて全量を高値で買い取り、農家の収入増に繋がっている。

5 会員制度の発足

平成24年10月からは、道の駅もてぎの情報をお客様に積極的に発信してゆくことを目的に、会員制度「もてぎすきだっぺクラブ」を発足させた。500円の入会金（年会費無料）で、現在では約3,000名の方々が会員になった。栃木県内はもちろんのこと、北は北海道から南は九州地方の方にも会員に入っていただき、予想をはるかに上回って増えている。

会員の特典は、

- ① 会員証の発行とポイント付与。（100円のお買い物につき1ポイント付与。300ポイントで300円の商品券と交換）
- ② 会報誌「すきだっぺ通信」を年3～4回お届けし、



写真4 「もてぎすきだっぺクラブ」会員証や会報誌

道の駅もてぎの新商品やイベント情報、町のオーナー制度などの観光情報を紹介する。

- ③ 体験教室、イベント優先権。

柚子狩りやバレンタインチョコ作り教室など、体験型イベントに優先的に参加できる。

- ④ 季節のお得クーポン券の発行。

会報誌の送付に合わせ、道の駅もてぎで使用できる会員限定のクーポン券を発行する。

6 災害対策拠点としての「道の駅」の役割

平成16年10月に発生した新潟県中越地震の際に、道の駅が緊急避難所、救援物資提供、情報発信、災害の前線基地の拠点施設として有効に活用されたことから、道の駅は、防災施設として重要な役割を果たすと考えた。そのため当町では、平成19年には「茂木町地域防災計画」の中に道の駅を大規模災害時の防災拠点として整備することを明記した。

具体的には、栃木県の協力により、災害時に停電しても使用できる防災トイレの整備のため、井戸を掘削し、給水管、ろ過機、給水タンク、発電機等を整備した。それに伴い、夜間のトイレ内照明と携帯電話充電のための太陽光発電機、蓄電池の整備も行った。

更に、平成25年には災害時に拠点となる「茂木町防災館」を建設し、避難所、備蓄倉庫、太陽光発電機、蓄電池を整備している。

災害時の協力体制としては、平成23年5月に飲料水メーカーと「災害時における飲料水の提供に関する協定」により、災害時に無料で飲



写真5 茂木町防災館

み物が出る自販機7台を設置し、災害時に水道、電気等のライフラインが絶たれた時でも、自動販売機内のバッテリーが起動し無料で飲料水を取り出し、避難者に提供する。その他500ml飲料水約2,000本を無償で提供いただく協定を結んだ。

また、平成24年2月には、神奈川県大井町と「災害時における相互応援に関する協定書」により食糧、飲料水、生活必需品、資器材の提供や応急復旧活動に必要な職員の派遣など相互支援する協定を結んだ。今後、一朝有事の際には、物資や人的支援など融通、応援する体制を構築し、防災力と災害対応力の強化を図っていきたいと考えている。

7 おわりに

道の駅もてぎは地域に愛される“町民の為の道の駅”、訪れてくれたお客様に、「安心・安全」「喜び」「驚き」そして「やすらぎ」を感じていただく“訪れる人々の為の道の駅”社員が自信と誇りを持てる“従業員の為の道の駅”を目指している。

今や道の駅は全国で1,000を超えた。単にドライバーの休憩所というドライブイン機能から、目的地としての役割に変わってきている。「第二次道の駅ブーム」と私は勝手ながらそう呼んでいる昨今、お客様から道の駅が選ばれる時代への突入。何か事を起し、わざわざ行きたいと思えるような、そして常に変化を追い求めた運営をしなければいけない。客のほとんどがリピーターだからだ。

お客様は何を求めて訪れるのか？何を魅力に感じているのか？「今だけ」「ここだけ」「あなただけ」というフレーズに日本人は弱いと言われているが、その土地の特産品を求めるお客様が数多く存在するのも事実だ。道の駅もてぎとして6次産業化に取り組んでいる事は前に説明しているが、確実に売り先がある農家の皆さんは安心して農作物を栽培することが出来る。道の駅はその農産物を製品へと変えていく。そこに地域産業の振興という関係が成立する。人々はこうして出来上がった商品を探し、交流の拠点が成立する。この関係に更なる広がりを持たせていく為、6次産業化の拡大が重要になってくる。現在は果樹類の加工が主となっているが、今後は野菜直

売所には並べていない規格外野菜の活用だ。こうすることにより、農家の皆さんは更に安心して野菜の栽培をすることが出来る。

次に農業分野への参入だ。道の駅もてぎの野菜直売所に出荷している皆さんは、比較的高齢な方々が多く、将来的な野菜不足という問題が出てくる。新規就農者も多い訳ではない。そこで考えられるのが、従業員で野菜栽培をしていくという考えだ。

また、道の駅もてぎは防災拠点としての役割も担うなど、その責任はますます大きいものになってきている。このことをしっかりと認識しながら進化し続けていきたい。

更なる雇用を生み出し、地域を潤すのが道の駅もてぎとしての最大の役割だ。そのためには何でもやる。いわば、地域密着型の総合商社ですから。

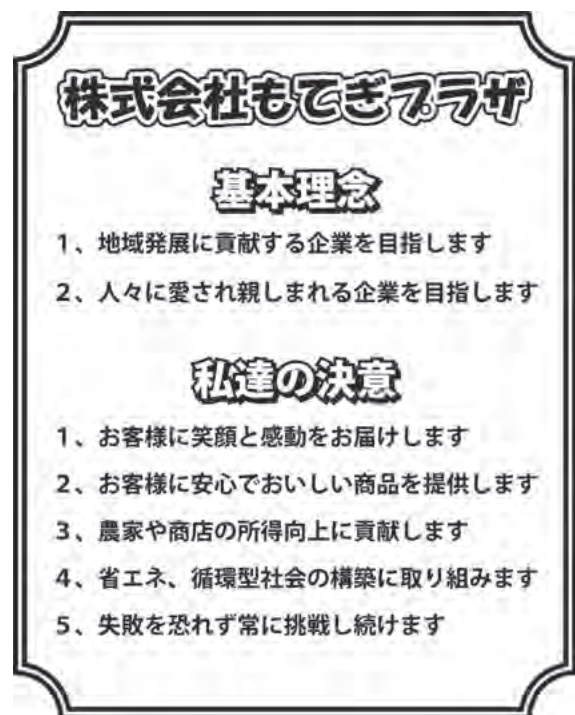


図2 道の駅もてぎを運営する(株)もてぎプラザの基本理念と私達の決意

■問い合わせ先

〒321-3531 栃木県芳賀郡茂木町大字茂木 1090-1

道の駅もてぎ内

茂木町役場地域振興課地域振興係

TEL：0285-63-5671 FAX：0285-63-5681